

第39回日本肝移植学会学術集会報告

Report of the 39th Annual Meeting of the Japanese Liver Transplantation Society

会長 八木 孝仁 (岡山大学病院 肝胆膵外科)

Takahito Yagi (Department of Hepato-Biliary and Pancreatic Surgery, Okayama University Hospital)

今回2021年6月24日(木)と25日(金)に第39回日本肝移植学会学術集会を、開催させていただく栄誉にあずかりました。当初は倉敷アイビースクエアを会場として開催させていただく予定で準備しておりましたが、昨今のCOVID-19の流行に鑑み、急遽完全 Web 開催に変更させていただきました(図1)。

日本の臨床肝移植の歴史も30年を超え、医療界での働き方改革が進む中で第39回のタイトルは、「変わりゆく日本の肝移植～変貌する移植環境への対応と進化～」と決めましたところ、年末からのCOVID-19禍の襲来により医療界全体が、未経験の環境への迅速な対応と進化をいっそう求められる状況になりました。わが国の置かれた状況は、極端な人口減少社会の中で、働き方改革を達成しつつ生産性を上げ、かつ social

distanceを保つという一見矛盾に満ちた目標を達成することを迫られています。安全で安心な医療を提供するため膨大なマンパワーを十重二十重の安全管理に費やす事のできる時代は終わりました。マンパワーをセーブして従来以上の安全管理を行い、かつ短時間で高いパフォーマンスの移植医療を行うにはどうしたらいいのか、会員諸兄の工夫や展望が討議され、時代に遅れを取らない肝移植医療の実現にむけて闊達な議論をいただきました。

特別講演と致しまして私どものチームの留学先であるエラスムス大学のロッテルダム医療センター 肝胆膵外科のPolack教授に「Current status and future perspectives of liver transplantation in Europe and in the Netherlands」と題してeuro transplantでのDCDドナーからの肝移植とCOVID-19への対応を中心にお話いただきました(図2)。これからの日本の臓器提供を進めていく上での大きな指針となるものと思われます。

日本肝移植学会の会員様、関係の皆様方ならびにご支援いただきました本学の皆様方におかれましては第39回日本肝移植学会へのご参加・ご支援どうも有り難うございました。6月24・25両日のライブ配信日程を無事終了することができました。180超の演題・300名以上の参加を得て、web上では例年にもまして熱い御討議をいただき盛会のうちに会を終えることができました。これもひとえに先生方の日々のご支援のおかげと医局員一同深謝しております(図3)。

地元岡山のhospitalityと文化の香りを全国の会員様にお届けできなかったことは心残りではありますが、また何らかの形で会員・関係の先生方にお届けできるよう医局員あげて尽力して参る所存です。

移植に必要なものは携わる医師個人個人の「熱」であることに変わりないと私個人は考えております。「熱」を冷ますことなくかつ生産性を上げるという目的をsystemで対応するには、マンパワーも財源も十分では



図1 学会ポスター



図2 Polack 教授



図3 スタッフ集合写真

ありません。限られた人的・財政的資源の中で、医療者側の skill up をして行くには、さらなる communication 強化と AI 導入を進めていく必要があると考えます。Web 開催下ではありましたが多くの先生方にご参加・ご発表いただき、COVID-19後の日本の肝移植における診療・研究・教育活動の一助になれば幸いです。

最後に医療現場の最前線で尽力されている皆様方に

改めて敬意を表するとともに、このパンデミックの一日も早い終息を祈念して私の第39回日本肝移植学会学術集会報告とさせていただきます。

2021年8月24日受稿
〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1
電話：086-235-7257 Fax：086-221-8775
E-mail: liver@md.okayama-u.ac.jp